化学産業におけるSDGs

<本日のアジェンダ>

- I. SDGsとは?
- II. 行政の動向
- III. 産業界の動向
- IV. 化学産業の立ち位置は?
- V. 化学業界の動向
- VI. 日化協の取組み









夏 産業と技術革新の 基盤をつくろう















⟨=⟩





一般社団法人 日本化学工業協会 SDGs室 部長 五所亜紀子



I. 持続可能な開発目標(SDGs)とは?



持続可能な開発目標(SDGs)とは,2001年に策定されたMDGsの後継として,2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。

持続可能な世界を実現するための 17のゴール・169のターゲットから 構成され、地球上の誰一人として取 り残さない(leave no one behind) ことを誓う。

SDGsは発展途上国のみならず, 先進国自身が取り組むユニバーサル (普遍的)なもの



出典: 外務省 JAPAN SDGs Action Platformより、https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html



Ⅱ. SDGsに関わる行政の動向:経済産業省



「SDGs経営ガイド」

- 大企業・ベンチャー企業の経営者、機関投資家、アカデミア、国際機関から出された意見を整理し、企業が本業を通じてSDGsに取組む「SDGs経営」のエッセンスや投資家がこれを評価する視座等をまとめた。
- ◆ 本ガイドの主な狙いは、、、
 - ①世界中の企業が新たに/さらに「SDGs経営」に取り組む際の羅針盤を提示するとともに、投資家が「SDGs経営」を評価する際の視座を提供すること。
 - ②日本企業の「SDGs経営」の優れた取組を 世界にPRすることで、海外から日本企業への 投資を促すこと。 2019 Japan Chemical Industry As



<SDGs経営ガイドのコンテンツ>

Part1.SDGs—価値の源泉

- ①企業にとってのSDGs
- ②投資家にとってのSDGs-SDGs経営とESG投資-
- ③マルチステークホルダーとの「懸け橋」

Part2. SDGs経営の実践

- ①社会課題解決と経済合理性
- ②重要課題(マテリアリティ)の特定
- ③イノベーションの創発
- ④「科学的・論理的」な検証・評価
- ⑤長期視点を担保する経営システム
- ⑥「価値創造ストーリー」としての発信

出典: 経済産業省HPより、 https://www.meti.go.jp/press/2019/05/2019 0531003/20190531003.html



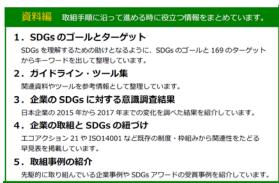
Ⅱ. SDGsに関わる行政の動向:環境省



「持続可能な開発目標(SDGs)活用ガイド」

- 環境省は、持続可能な開発目標(SDGs)に係る取組の進展に寄与することなどを目的として、すべての企業が持続的に発展するためのSDGsの活用ガイドを作成。
- 本ガイドでは、変化するビジネス環境の中で企業が置かれている状況と、企業にとってSDGsに取り組む意義について説明した上で、具体的な取組の進め方を示す。また、既にSDGsに先駆的に取り組んでいる企業の事例などを紹介。
- ◆ 本ガイドを活用してSDGsに取り組むことにより、
 経営リスクを回避するとともに、新たなビジネス
 チャンスを獲得し、持続可能な企業へと発展していくことを期待。





出典: 環境省HPより、

http://www.env.go.jp/policy/sdgs/index.html



II. SDGsに関わる行政の動向:金融庁



「金融行政とSDGs」

- 日本政府として推進している持続可能な開発目標(SDGs)は、企業・経済の持続的成長と安定的な資産形成等による国民の厚生の増大を目指すという金融行政の目標にも合致するものであり、金融庁としてもその推進に積極的に取組む
- SDGsは、本来的には企業・投資家・金融機関といった各経済主体が自主的に取り組むべきものであるが、何らかの要因でそうした動きが妨げられて外部不経済が発生している場合には、経済全体としての最適な均衡の実現に向け、当局として促すことも必要



《資本市場における取組み》

- ・企業・投資家の対話を通じた企業価値向上とTCFD
- ・国連・責任投資原則(PRI)
- ・JPX(日本取引所グループ)の取組み
- ・証券業界における取組み

《間接金融における取組み》

- ・地域金融機関による顧客との「共通価値の創造」
- ・銀行業界における取組み
- ・保険業界における取組み

《横断的な取組み》

- ・金融経済教育の推進
- ・新興国との技術協力・人材交流
- ・マネー・ローンダリング/テロ資金供与対策

出典: 金融庁HPより、

https://www.fsa.go.jp/policy/sdgs/ FSAStrategyforSDGs.html



SDGsに関わる産業界の動向: Global Compact等🙌



「SDGコンパスの公開」

- ●SDGsの企業行動指針となるガイドラ インを公開
- ●地球は、経済、社会および環境の面 で大きな課題に直面している。こうし た課題に対処するため、「持続可能な 開発目標(SDGs)」は、2030年に向け て世界的な優先課題および世界のある べき姿を明らかにしている。極度の貧 困を根絶し、世界を持続可能な軌道に 乗せるための先例のない機会を提供す るもの。世界の各国政府は、すでにこ の目標に合意している。**今こそ企業が 行動を起こす時**である。本SDGコンパ スは、**各企業の事業にSDGsがもたらす** 影響を解説するとともに、持続可能性 を企業の戦略の中心に据えるための ツールと知識を提供するものである。

01 SDGs を理解する

第一ステップは、企業がSDGs に関し十分に理解することを支援する ものである。

02 優先課題を決定する

SDGs によってもたらされる最も重要な事業機会をとらえ、リスクを 減らすために、企業は、そのバリューチェーン全体を通して、SDGs に 関する現在および将来の正および負の影響を評価し、それに基づき、そ れぞれの優先的に取り組む課題を決定する。

03 目標を設定する

目標の設定は、事業の成功にとって重大であり、企業全体を通じ、優 先的事項の共有を促進し、パフォーマンスを改善する。企業は、その目 標をSDGs と整合させることによって、企業のリーダーは持続可能な開 発に対する明確なコミットメントを示すことができる。

04 経営へ統合する

中核的な事業と企業ガバナンスに持続可能性を統合し、企業内のすべ ての機能に、持続可能な開発目標を組み込むことは、設定された目標を 達成する上で鍵となる。

共有された目的を追求し、組織的な課題に取り組むためには、バ リューチェーン全体を通じて、そのセクター内、あるいは、政府や市民 社会団体とのパートナーシップにより協働していく必要がある。

05 報告とコミュニケーションを行う

企業は、共通の指標や共有された優先課題を活用して、持続可能な開 発に関するパフォーマンスを報告することができる。SDG Compass は、 企業が、SDGs に関する事項を、多くのステークホルダーとの意見交換 や報告に導入していくことを推進する。

GRI, the UN Global Compact and the World Business Council for Sustainable Development (WBCSD), www.sdgcompass.org



II. SDGsに関わる産業界の動向:経団連



「SDGs特設サイト開設」

経団連では、Society5.0forSDGsの推進を一層強化するべく、**SDGs特設サイト**を開設。

同Webサイトでは、「Innovation for SDGs-Road to Society5.0-」(SDGsに **資するイノベーション事例集)**のほか、**経 団連が目指す未来社会「Society5.0」の** 説明などを紹介。

出展: 経団連HPより、https://www.keidanrensdgs.com/home-jp

雨水貯水システムによる水害被害の抑制及び水不足の解消 積水化学工業(株)

気候変動がもたらす干ばつによる水不足は、農業生産量への被害を深刻化させます。また、異常気象の増加は洪水被害をもたらします。積水化学工業の子会社である積水テクノ成型株式会社が展開する雨水貯留システム「クロスウェーブ」は、雨水を貯水槽に貯めることにより、少雨の際は安定的な水の供給、また豪雨の際は洪水の防止に貢献します。



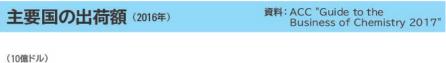




IV. 化学産業の立ち位置は?



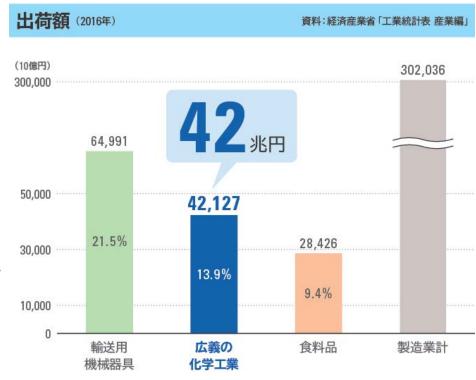
世界における出荷額は、世界第3位



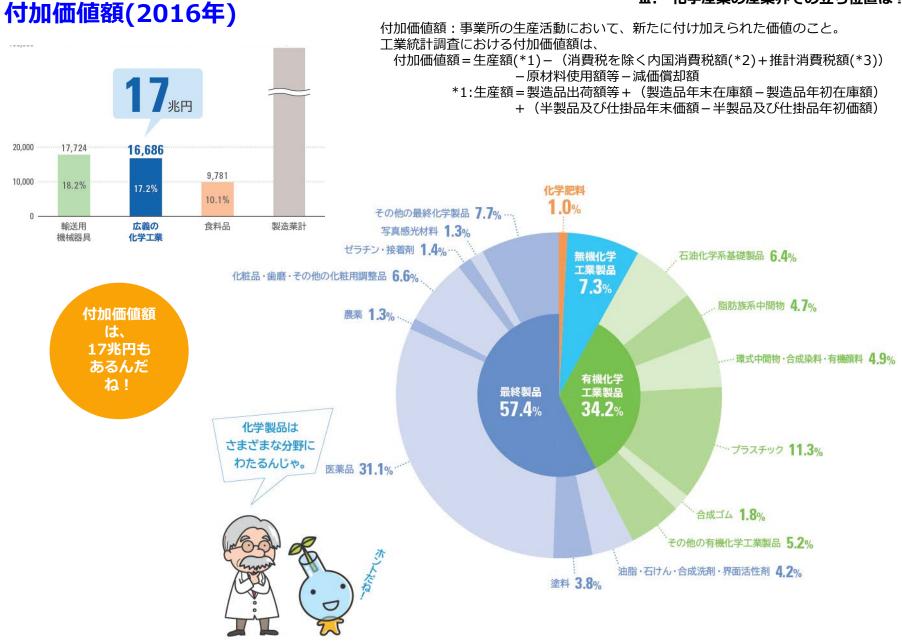


出典: 日化協の「グラフで見る日本の化学工業2018」より、 https://www.nikkakyo.org/newsrelease/263

国内における出荷額は、 輸送用機械器具につづき、第2位



Ⅲ. 化学産業の産業界での立ち位置は?

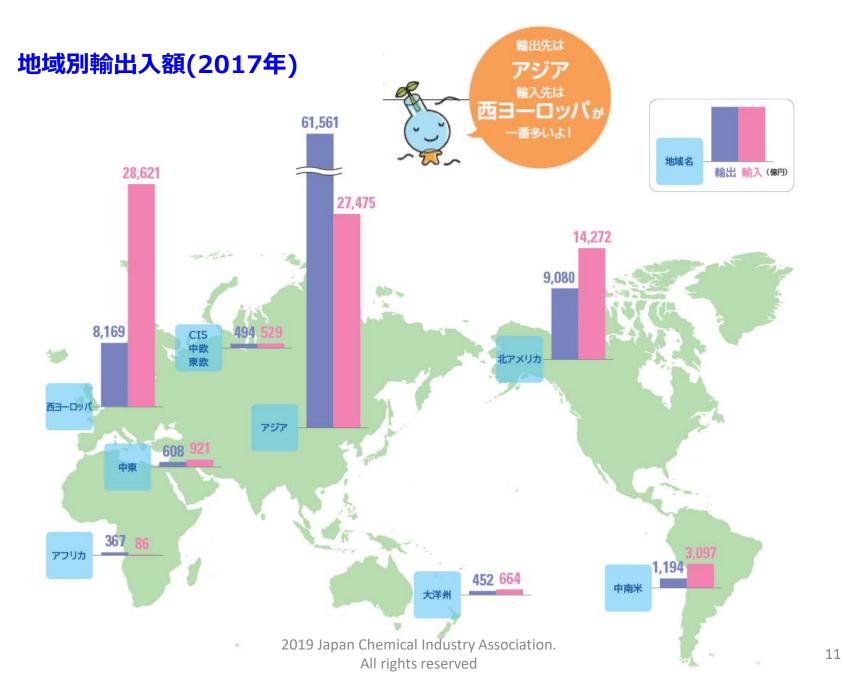


2019 Japan Chemical Industry Association.
All rights reserved

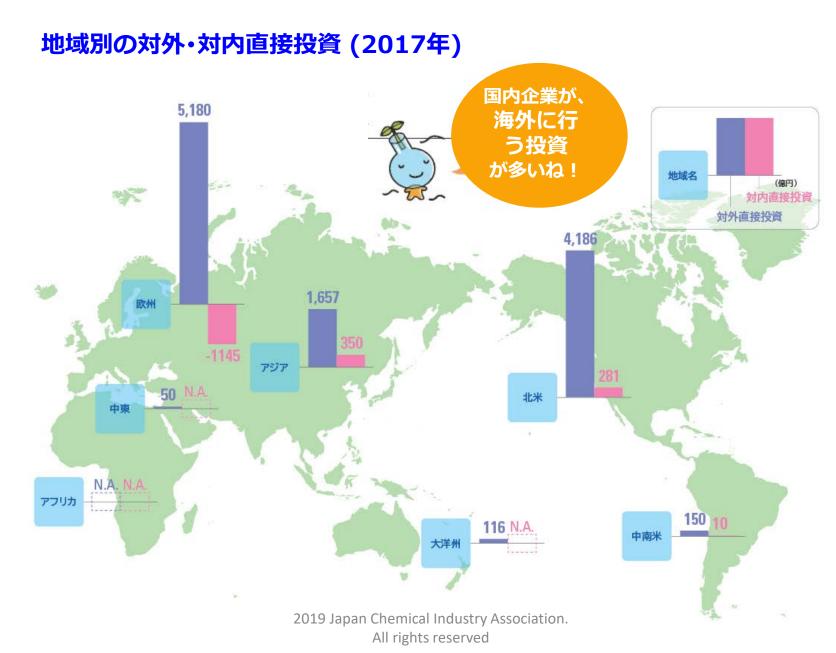
主要指標とその構成比(2016年)

		主要指標・構成比							
	事業	事業所数		従業者数		出荷額		付加価値額	
業種	(A)	%	(A)	%	(10億円)	%	(10億円)	%	
化学肥料	145	3.2	3,952	1.1	277	1.0	70	0.6	
無機化学工業製品	786	17.1	34,391	9.6	2,002	7.3	755	6.8	
有機化学工業製品	741	16.1	91,714	25.6	9,316	34.2	2,746	24.8	
▶石油化学系基礎製品	11	0.2	5,183	1.4	1,732	6.4	309	2.8	
▶脂肪族系中間物	67	1.5	10,120	2.8	1,272	4.7	511	4.6	
▶環式中間物·合成染料·有機顔料	136	3.0	13,747	3.8	1,328	4.9	385	3.5	
▶プラスチック	233	5.1	32,789	9.2	3,072	11.3	912	8.2	
▶合成ゴム	18	0.4	6,566	1.8	495	1.8	174	1.6	
▶その他の有機化学工業製品	276	6.0	23,309	6.5	1,417	5.2	455	4.1	
最終製品	2,927	63.6	227,970	63.7	15,655	57.4	7,493	67.7	
▶油脂・石けん・合成洗剤・界面活性剤	275	6.0	14,656	4.1	1,155	4.2	555	5.0	
▶塗料	377	8.2	16,158	4.5	1,043	3.8	432	3.9	
▶医薬品	768	16.7	97,796	27.3	8,468	31.1	4,388	39.7	
▶農薬	76	1.7	4,989	1.4	356	1.3	144	1.3	
▶化粧品・歯磨・その他の化粧用調整品	474	10.3	39,152	10.9	1,796	6.6	991	9.0	
▶ゼラチン・接着剤	137	3.0	6,224	1.7	374	1.4	119	1.1	
▶写真感光材料 従業員	40	0.9	7,871	2.2	356	1.3	119	1.1	
▶その他の最終化学 89万人も	780	17.0	41,124	11.5	2,107	7.7	745	6.7	
化学工業	4,599	100	358,027	100	27,250	100	11,064	100	
化学工業	4,599	23.8	358,027	40.0	27,250	64.7	11,064	66.3	
プラスチック製品	• 12,349	63.9	425,035	47.5	11,764	27.9	4,260	25.5	
ゴム製品	2,384	12.3	111,825	12.5	3,113	7.4	1,362	8.2	
合計(広義の化学工業)	19,332	100	894,887	100	42,127	100	16,686	100	

Ⅲ. 化学産業の産業界での立ち位置は?



Ⅲ. 化学産業の産業界での立ち位置は?



化学産業は、我が国の主要産業として、

私たちの**暮らしを豊かで快適にする**製品を提供するだけでなく、

我が国の製造業を支え、持続可能な社会の構築のため、

地球規模のさまざまな課題の解決に貢献している。



広義の化学工業 = 化学工業 + プラスチック製品 + ゴム製品



V. SDGsに関わる化学業界の動向:WBCSD



持続可能な開発のための世界人会議

持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)は、世界の財界に対し、企業、社会および環境にとって持続可能な未来の創造を働きかけることを使命とする。現状を変革するビジネス・ソリューションを拡充するため、200社の会員企業からなるフォーラムを主催している。

セクター別の「SDG Sector Roadmaps」 に「Chemical Sector SDG Roadmap」

あり。その中で、化学 セクターは、特に、

食品、水、人と健康、 エネルギー、社会イン フラの5分野でSDGsに 貢献すべきとしている。





https://www.wbcsd.org/Programs/People/Sustainable-Development-Goals/SDG-Sector-Roadmaps



V. SDGsに関わる化学業界の動向:化工学会・JACI 🙌



化学工学会 SDGs検討委員会

2015年9月国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」達成 に向けた化学工学の貢献および化学工学会における取組みを検討。

先日、札幌宣言を発表。 http://www.scej.org/acteve/organization/strategy.html

(公社)新化学技術推進協会(JACI) 東京宣言2015

"第4回JACI/GSCシンポジウム/第7回GSC東京国際会議(GSC-7)" (2015年7月)において、GSCの推進をもって社会の豊かで持続可能な発展の ため、地球環境との共生、社会的要請の充足、および経済合理性を同時に達 成することを目指した研究開発に引き続き取り組んでいくことを再認識し、 今後さらに、資源・エネルギー、地球温暖化、水・食料、人口問題といった 地球規模かつ長期的な課題に対して、従来の壁を越えた様々な連携によって GSCの推進に取り組んでいくことを表明した"The Statement 2015"(東京 宣言2015)を採択。 http://www.jaci.or.jp/about/page_11.html



VI. 日化協のSDGsに関する取組み



一般社団法人 日本化学工業協会とは?

- 1. 設立 1948年
- 2. 組織 会長:淡輪 敏 (三井化学(株)代表取締役社長)
 - ・企業会員 177 社
 - ・団体会員 80 団体

(2019年11月現在)

3. 使命、役割

日本を代表する工業会として、国際化学工業協会協議会(ICCA)に参画し、 欧米の協会とともに世界の化学産業の取り組みをリードする

化学産業の健全な発展を図り、我が国経済の繁栄と国民生活の向上に寄与する

《日化協の事業》

化学工業に関する:

- ① 生産、流通、消費などの調査・研究
- ② 技術、労働、環境・安全などに係る諸問題の調査・研究ならびに対策の企画およびその推進
- ③ 優れた技術開発業績、安全成績などに対する表彰
- ④ 情報の収集および提供、内外関係機関などとの交流および協力
- ⑤ 普及および啓発、研修会、セミナーなどの開催

日化協・淡輪会長のトップメッセージ

化学が持つ無限のポテンシャルを発揮し
化学産業のさらなるプレゼンス向上に貢献する



重点となるポイントは、、、

- ◆ 操業および製品にかかわる安全の強化
- ◆ 新たな価値の創造と持続可能な社会の構築への貢献
- ◆ 社会とのコミュニケーション強化

2019年日化協アニュアルレポートでは『持続可能な社会に向けて』も特集 https://www.nikkakyo.org/system/files/日化協アニュアルレポート2019_28P_fin.pdf



日化協のSDGs取組み年表

状況を整理

2017年 1月: SDGsタスクフォースを発足

2017年 5月: 持続可能な開発 (SDGs) に向けての

化学産業のビジョンを策定し、発表

https://www.nikkakyo.org/system/files/SDGs_01.pdf

2018年 3月: SDGs部会を設置(現在、39社参加)

2018年 7月: 第1回SDGs部会開催

2018年10月: SDGs室の設置

2018年10月: 第1回SDGs-WG開催(19社21名参加)

2018年12月: SDGs専用HPの開設

(継続的に、会員会社のSDGs事例を公開)

https://www.nikkakyo.org/SDGs

方向性を提示

支援を開始

情報を公開

【SDGsタスクフォース活動の概要】

<構成>

議長 : 森田壮平 RCLG副議長(三井化学) アドバイザー : 平尾雅彦 東京大学教授

メンバー会社 : 花王、住友化学、昭和電工、三井化学、三菱化学

事務局(日化協): 春山常務(当時)、RC推進部、化学品管理部

<活動期間>

2017年1月~5月 5日に渡り、ミーティングを実施

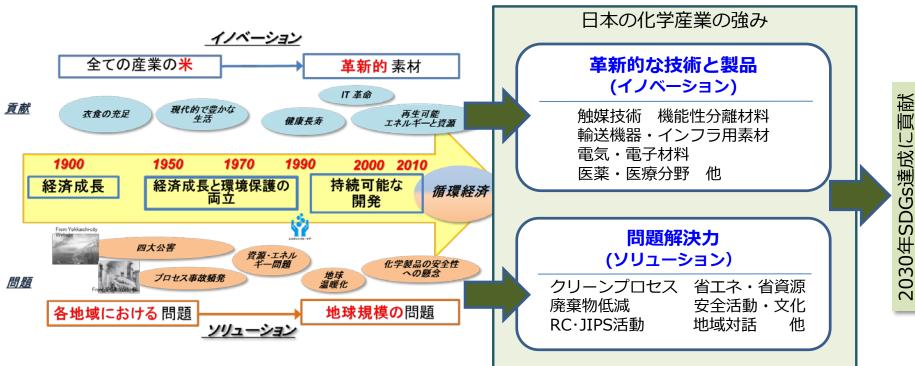
<議論の概要>

- ① 日本の化学産業の歴史を振り返り、化学産業が持続可能な開発に 貢献するための強みを抽出する
- 持続可能な開発目標(SDGs)と化学産業との関わりを整理し、 RCなどの化学産業の活動の位置づけを行う
- ③ 日本の化学産業の強みを生かした持続可能な開発への貢献に向け てのビジョン(あるべき姿)を策定する

日本の化学産業の歴史と強みは?

日本の化学産業は、その成長の過程で、四大公害、環境汚染、オイルショック など様々な問題に直面したが、その問題を克服して発展を続けてきた ⇒その経験が現在の日本の化学産業の強みにつながっている

「持続可能な開発」の観点から見た日本の化学産業を振り返ると、、、

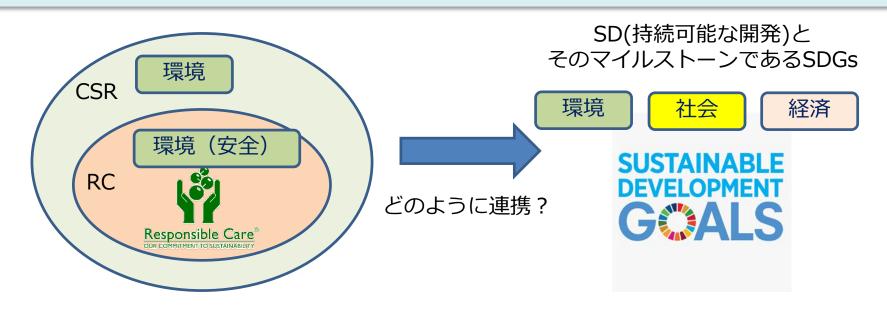


化学産業にとってのRCの位置づけから

~RC、CSR∠SD(Sustainable Development)~

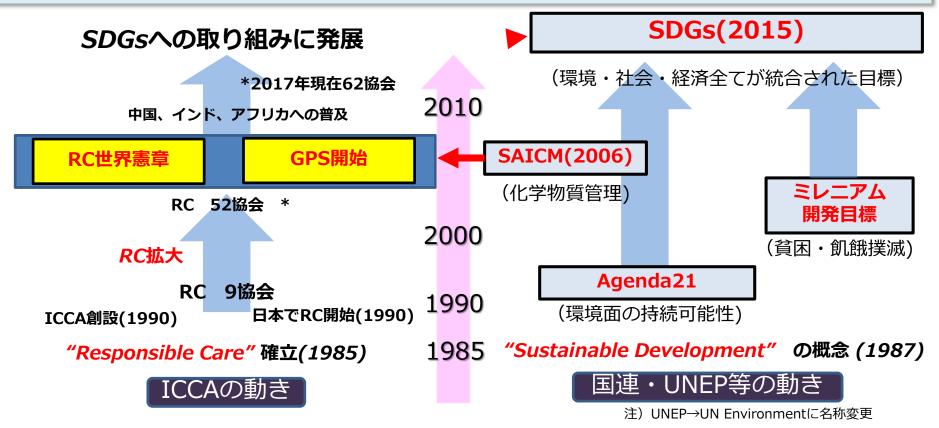
化学産業にとって、環境・安全は産業の存続に関わる重大事項であり、ゆえに、 産業界でCSRが環境および社会面における企業の責任と広く認知されてからも、 RC活動は化学業界でのCSRの中核的活動として位置づけられていた。

2000年以降、環境、社会、経済の3本柱から成るSDの概念が広く認識され、 2015年にそのマイルストーンであるSDGsが合意されたことにより、 RCの概念を発展、再定義する議論がICCAで行われた。



世界の動きとRCの拡大

化学業界は、持続可能性に関する国際的合意の遂行に呼応してRC活動を拡大してきた
⇒国連のSAICM(国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ)実施における
化学産業界のアプローチとしてGPS(Global Product Strategy)活動を開始し、
RC世界憲章を制定した。



2019 Japan Chemical Industry Association.
All rights reserved

SDGsの観点から見た化学産業の事業活動

- 17の持続可能な開発目標(SDGs)と化学産業の活動との関係を整理
 - ⇒(1)SDGsへの貢献に向けての新たな活動を一から始めるのではない
 - (2) 事業の基盤活動として取り組むRCやCSR活動は、イノベーションや グローバル事業展開のような成長に向けた活動と一体化することにより、 SDGsを達成するための基盤活動としても位置づけられる

化学産業の事業活動とSDGsとの関連のイメージ



「持続可能な開発」の観点から成長に向けた活動と基盤活動を一体化し、経済的成長とSDGs 達成を両立する

日本の化学産業の強みを活かした、 SDGsに貢献するためのビジョンを新たに策定(2017年5月策定)

日本の化学産業の強み

革新的な技術と製品 (Innovation) 環境等の問題解決力 (Solution)

強みを生かして進化

課題対応型産業(Reactive)から産業の先導役(Proactive)へ 責任(Responsibility)から貢献(Contribution)へ

ビジョン1 化学のカでイノベーションを創出し、人々の豊かで健やかな生活に貢献

ビジョン2 世界的な環境・安全問題への取り組みを支援

ビジョン3 ステークホルダーとの対話を通じて化学産業による貢献を促進

ビジョン 1 化学の力によりイノベーションを創出し、人々の豊かで健やかな生活に 貢献します

- ① 提案解決型の産業としてバリューチェーン全体と連携し、持続可能な社会を実現するための素材や物質を通したイノベーションを主導します。
- ② 政府や大学など、イノベーションを先導するステークホルダーとの連携を密にし、現在実現していない革新的なイノベーションや社会全体の変革(超スマート社会等)を伴うイノベーションの創出を目指します。
- ③ 自らの製造プロセスを絶え間なく改善することにとどまらず、究極の省エネルギー、省資源の達成と廃棄物ゼロプロセスを目指します。

ビジョン2 世界的な環境・安全問題への取り組みを支援します

- ① 日本の化学産業の経験を活かし、現地日系企業や現地協会への支援を通して、生産活動における環境・ 安全を守る取組みを支援します。
- ② 新興国に対し、RCの考え方を普及させます。
- ③ 世界中に化学品の安全な管理に関する手法と化学品のリスクを伝え、化学製品が正しく使用され、人々の豊かな生活に貢献するように配慮します。

ビジョン3 ステークホルダーとの対話を通じて、化学産業による貢献を促進します

- (1) 化学物質のリスク情報をバリューチェーン全体に正確に伝え、その正しい使い方を共有します。
- ② 環境保全や廃棄物低減等、持続可能性に配慮した製品の価値をステークホルダーと共有し、それに基づいた製品開発を行います。
- ③ 投資家等との対話を通じて、化学産業の持続可能な開発への貢献と将来の無限の可能性について理解を得ることにより、環境・社会・ガバナンスへの投資を促進します。

SDGsと化学産業の関わり・1

SDG s	関連する化学産業の活動
1. 貧困をなくそう	グローバル展開で新興国に雇用を創出したり、開発協力を行ったりすることによって当該国の経 済発展に貢献し、貧困の低減に貢献している。
2. 飢餓をゼロに	肥料、農薬によって農業生産能力向上による食糧増産に貢献すると共に、植物工場のような農業 困難地での食糧生産を可能にする技術を開発している。
3. 全ての人に 健康と福祉を	医療機器関連素材や医薬原料・原体の提供により、医療の進歩に貢献している。また、GPSなどの化学品安全活動により、有害化学物質による健康被害の防止を行っている。
4. 質の高い 教育をみんなに	グローバル展開において、新興国での労働者へのスキル教育を行い、当該国における技術的・職 業的スキルの向上に貢献している。
5. ジェンダー平等 を実現しよう	各企業におけるCSR活動の一環として、ジェンダー、ダイバーシティーを実現のための努力を 行っている。紙おむつ(生理用品)等吸収剤の提供により、女性が男性同様に働けるインフラ整 備に貢献している。
6. 安全な水と トイレを世界中に	限外ろ過膜や吸着剤等により、水の浄化に貢献している。海水淡水化膜等の技術により、砂漠や 孤島における水の供給に貢献している。節水型洗剤の開発により、民生分野における節水に貢献 している。
7. エネルギーを みんなに そしてクリーンに	二次電池、太陽電池、風力発電装置材料など再生可能エネルギーの利用に欠かせない素材の提供を行っている。製造過程で省エネルギープロセス・技術を開発するだけでなく、LED関連素材、軽量素材、断熱材等により民生分野の省エネルギーに貢献している。
8. 働きがいも 経済成長も	工場の立地により、地域の雇用に貢献し続けるだけでなく、グローバル展開によって、新興国での雇用創出にも貢献している。RCの労働安全衛生活動等により、安全・安心な職場環境づくりを促進している。
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	建築資材、輸送機器用素材等多くのインフラ用素材を提供している。数々の革新的機能素材の提供を通じて、各産業におけるイノベーション全般を支えている。タッチパネルや光ファイバーなどのIT関連素材の供給を通じて通信インフラの整備にも貢献している。

SDGsと化学産業の関わり・2

SDGs	関連する化学産業の活動
10. 人や国の 不平等をなくそう	グローバル展開において新興国における雇用を創出している。
1 1. 住み続けられる まちづくりを	RCに保安防災活動や大気・廃棄物の管理を通じて、都市の安全の向上や環境改善に貢献している。耐震ゴムなど災害対応素材の開発を通じて自然災害に強いまちづくりに貢献している。エアバッグなど安全装置の提供を通じて都市交通の安全性向上に貢献している。
12. つくる責任 つかう責任	レスポンシブル・ケア全般が本目標に関連している。SAICM&GPSにより、製品ライフサイクルにおいて化学物質を管理している。機能性素材・技術により、環境に負荷の少ないプロセスや省資源プロセスを開発している。廃棄物の再利用や資源化技術により、廃棄物の削減に貢献している。
13. 気候変動に 具体的な対策を	地球温暖化対策として、低炭素社会実行計画の策定や、長期戦略WGを通じて低炭素社会を実現するためのイノベーションの検討を行っている。石炭火力発電等の問題に取り組んで、CO2排出負荷の少ない電力供給に取り組んでいる。
14. 海の豊かさを 守ろう	マイクロプラスチックス海洋汚染問題への対応に取り組むとともに、機能性素材等の開発を通じて海洋汚染防止に取り組んでいる。養殖用素材の供給を通じて、漁業資源確保に貢献している。
15. 陸の豊かさも 守ろう	工場周辺の環境整備などを通じて生物多様性への取り組みを行っている。砂漠化対応素材(吸水性ポリマー)の供給を通じて陸の環境保全に貢献している。
16. 平和と公正を 全ての人に	CSRやRCを通じて法律や企業倫理(環境・安全面における法律以上の取り組みも含む)の遵守やその情報公開を行っている。
17. パートナーシップで 目標を達成しよう	キャパシティ・ビルディング活動への参加を通じて、新興国におけるRCの普及と環境・安全に 関する技術や技能の向上に貢献している。

日化協における事業活動SDGs部会の開始(2018年3月~)

活動方針

SDGsに貢献するビジョンの充実を図りつつ、活動を通じ、

- ①会員に対して、持続可能な開発に貢献する取組みを支援する
- ②アジアの化学産業への展開を図り、支援する
- ③ステークホルダーに対しては、化学産業のSDGs貢献について情報を発信し、理解促進を図る

活動内容

- ・事例集や既存プログラムを通じた情報共有と提供
- ・政府、ICCA、APRO及び関係する協会等との連携
- ・消費者、学校・若年層、投資家等への発信と理解促進
- ・RC活動、CSR活動との関連性のみえる化と発信
- ・その他(会員間の交流、人的ネットワークつくり等)

メンバー会員の取組み状況は幅広く、またニーズの把握とその対応は課題



具体的な活動の模索と実行

SDGs部会の設置(2018年3月~)

- ◆SDGs部会への参加企業数は、39社(2019年度から4社増加。8月現在)
 - ・ほとんどが、CSR、広報IR、経営企画部門の部長、室長クラス
- ◆SDGs部会の主旨
 - ・参加企業間の懇親・懇話と情報共有をコンセプトとし、社会動向、 関係団体・日化協の動きを踏まえ、各社の課題である「社内浸透」強化 に向けて、年4回の定期開催(3,6,9,12月の第1金曜日の午後開催)

会の構成	その内容	メンバー
連絡会	・事業活動の報告及び審議 ・日化協内外のトピックス共有	部会メンバー
勉強会	・外部講師等による情報提供	部会メンバー 日化協会員メンバー オブサーバー (ICCA·RCLG/JACI/化学工学会)
情報交換会	・希望者よる意見交換会 *直接コミュニケーションする場により、各会員の個別の取組み情報や 意見の交換を行い、相互に学ぶ	部会メンバー

◆SDGs部会・勉強会の過去の開催一覧

	メニュー(講師)
第1回	SDGsに関する経営者調査レポート解説(PwCサステナビリティ)
第2回	①経団連の取組み紹介(経団連)
	②WBCSD化学セクター発行の報告書解説(ERM日本)
	③国連経済社会理事会・HLPF会議出張報告(JSTと住化)
第3回	①地方創生に向けたSDGs推進について(内閣府)
	②包装材料にみる食口スへの貢献(農水省)
第4回	価値協創ガイダンスの解説(経産省)
第5回	①戦略的情報開示とESG投資(環境省、経産省、金融庁、シンクタンク、証券など)

- ■日化協会員企業は、無料参加可能
- ■聴講ターゲットは、広報・IR、CSR、経営企画部門の上長から担当者まで
- ■講演資料は、日化協HP(https://www.nikkakyo.org/sdgs/) から、一般の方でもできる限りダウンロード可能にしている

◆第5回勉強会「戦略的情報開示とESG投資(2019年7月12日開催)」

	メニュー	講師
第 1	ごあいさつ	日化協
	環境情報と企業価値に関する検討会報告書の解説	環境省
	TCFDに賛同する企業に求められる情報開示とは?	金融庁
部	産業保安及び製品安全における統合的開示ガイダンスの解説	経産省
	Q&A(環境省、金融庁、経産省)/名刺交換会	
	ESG投資概論	大和総研
	マーケットに応援される情報開示のあり方	大和証券
第 2 部	証券業界におけるSDGs債等の普及促進に向けた取組み	日証協
	グリーンボンド、ソーシャルボンドの概要と最新動向	日格付研
ΠР	サステナブルファイナンスの潮流〜日本政府や金融庁の視点から〜	金融庁
	Q&A(大和総研、大和証券、日証協、日格付研、金融庁)/名刺交換会	

当日は、<u>広報IR,CSR,経営企画部門の役員,部門長,課員などの日化協会員企業62社94名が参加</u>し、<u>聴講者の約8割が、自部門の業務・戦略立案に活用する目的で参加</u>した。

第1部は、化学企業が強みとする環境や社会への取組みを再確認し、また戦略的な情報開示(環境の取組み、産業保全、製品安全他の情報開示の内容の充実)に役立つ内容。

第2部では、「ESG投資」について理解を深め、化学企業が投資家に評価されるような情報開示の戦略立案に役立て、投資家サイドや行政からの解説を貰う内容。

SDGs事例集の作成

- 会員のSDGsに関わる取り組みの 支援を目的として、会員の協力を 得て作成している。
- 個社がこれまで取り組んできた事業活動についてSDGsの観点から、事業の成り立ちや成長と社会への具体的な貢献、また、経営層や事業に携わる社員の熱意や取り組み、さらに社外との連携などを、事例毎にまとめている。
- ・健康・介護・医療分野、社会インフラ分野のほか、食糧や資源エネルギー・環境問題への貢献など、多岐に渡る会員の製品、サービス、事業にフォーカスしてまとめた事例は、2019年度末までに20事例の公開を予定している。
- 日化協HPにて公開している。→ https://www.nikkakyo.org/sdgs/cases/page/new

企業名	事例	関連するSDGs
三菱ガス化学	エージレス	2 **** 13 ******************************
住友化学	オリセット ネット	3 MACHANE 13 MARKUM 17 MARKUM 17 MARKUM 1 MAKAMAM 1 MAKAMAMAM 1 MAKAMAM 1 MAKAMAMAMAM 1 MAKAMAMAM 1 MAKAMAMAM 1 MAKAMAMAM 1 MAKAMAMAMAM 1 MAKAMAMAMAM 1 MAKAMAMAMAMAMAM 1 MAKAMAMAMAMAMAMAMAM 1 MAKAMAMAMAMAMAMAMAMAMAMAMAMAMAMAMAMAMAM
花王	消臭ストロン グシリーズ	3 1756AC 9 881 988 9 12 75688
昭和電工	植物工場	2 886 3 894886 12 35588 17 6543-3077 6688835
ライオン	多項目・短時 間唾液検査シ ステ(SMT)	3 €000000 12 000000 17 00000000000000000000
DIC	カラーユニ バーサルデザ イン	3 \$25565 4 \$25565 10 \$25555 11 \$25555 12 \$2555 17 \$25555 \$ \$4\$ \$4\$ \$4\$ \$4\$ \$4\$ \$4\$ \$4\$ \$4\$ \$
三菱ケミカルア クア・ソリューショ ンズ	地下水膜ろ過システム	2 *** 3 ******* 6 ********* 8 ***** 9 ******** 17 *******************
旭化成	アルカリ水電 解システム	7 1100-1000 9 1110-1000 13 1310-100 17 santage? \$\infty\$



SDGs-WGの設置(2018年10月~2019年6月)

◆設置のきっかけ: SDGs部会内で、ヒアリング、アンケートをしたところ、SDGsを

取り組むにあたって、『社内浸透』が課題との意見が多かった。

■活動主旨: 社内での課題などをメンバーと情報共有し、一緒に考え、学ぶと

いった自主的な活動。

■テーマ: 社内浸透

■**サブテーマ:** 社員教育、情報開示、先進事例、経営への反映の4テーマ

■ **メンバー**: SDGs部会参加企業の19社21名

・経営企画、広報IR、CSR、総務、人事などから、役職も様々

■ WGの活動まとめ: 日化協HP(会員限定)に公開中

・WGの各サブテーマ毎に活動内容をまとめたもので、会員のSDGsの取組みに役立つ 気づき等を期待。





社員への浸透(社員教育での外部講師)

東亞合成㈱様の社内研修にて、本店、名古屋工場、アロン合成等の15拠点を テレビ会議システムでつなぎ、全社から100名超の社員が参加(2019年2月)



団体との連携

化学工学会・SDGs検討委員会(JACI、三井化学、住友化学も参加)の成果である「未来の化学工場のあるべき姿」を、2019年3月の化学工学会年次会にて発表。 また、先日、化学工学会から発表された「札幌宣言」の策定にも参加。







社会的な個別課題への対応(技術部主管)

- 地球温暖化に対する化学産業のあるべき姿(2017年5月策定) -

はじめに

- ※ パリ協定に基づく長期低排出発展計画の策定と国連事務局への提出(2020年までに)
- ※「化学」の潜在力を顕在化させることで、地球規模の課題解決イノベーションを創出

あるべき姿 ~ソリューションプロバイダーとしての化学産業~

- ①炭素循環の確立
- ・原料の多様化

- ②プロセス・エネルギー革新
- ·効率向上と国際展開

③環境優位の事業選択と協働体制

・部材製造段階での排出を大幅に上回るGHG 削減顕在化に向けた製品デザイン提案

あるべき姿の実現に向けて

①原料の炭素循環

- ・CCU, バイオマス, 天然ガス メタンハイドレート, 廃棄物の 利用
- ・バイオプラスチックと新たな 付加価値

②プロセス、構造の転換

- ·蒸留 ⇒ 膜分離
- ・フローリアクター、バイオ生成
- エネルギーの無駄排除プロセス
- ・企業の枠を超えたエネルギー・マテリアル管理

③ライフサイクルを通したGHG削減

- ・バリューチェーン全体のイノベーションに繋がる新素材
- ・最終消費者の潜在ニーズの先取 りによるユーザーへの提案

④海外への展開 : ビジネスベースでの新興国での展開 ・ 二国間対話や国際組織の活用

化学産業の総力を結集した 技術開発プログラム策定 技術的強みを活かし経済合理性をもった バリューチェーン全体の社会的イノベーション 国際展開に向けた提案と体制構築 を 起こす協働体制・社会システム構築

社会的な個別課題への対応(化学品管理部主管)

- 海洋プラスチック問題対応協議会 (2018年9月発足) -

設立:2018年9月7日

名称: Japan Initiative for Marine Environment

(略称:JaIME、和名:海洋プラスチック問題協議会)

会員:47社/団体(発起人22社を含む)、賛同会員:3団体(2019年3月現在)

共同事務局:日本化学工業協会、石油化学工業協会、塩ビ工業・環境協会、

日本プラスチック工業連盟、プラスチック循環利用協会

目的: グローバルな環境課題である海洋プラスチック問題について、

プラスチック産業を含めた日本の化学産業として執るべき対応等

について審議、企画立案・実施・推進する。

基本認識: プラスチック廃棄物流出の防止

既に流出したプラスチック廃棄物への対応

事業計画: 情報の整理と発信/国内動向への対応/アジアへの働きかけ

/科学的知見の蓄積

アジア働きかけ研修セミナーの企画

アジアへの働きかけ活動として、プラスチック廃棄物の現状等を把握するため、マテリアルフロー図作成方法について知見とノウハウをASEAN各国に紹介する研修セミナーを企画。

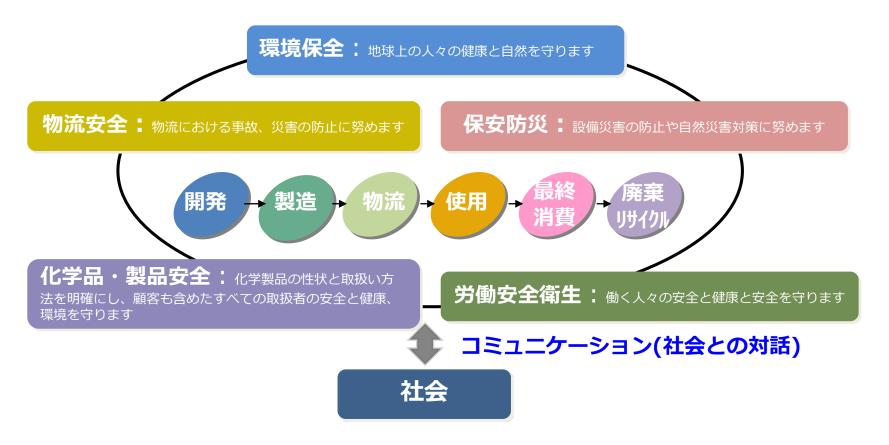
エネルギーリカバリーの有効性検証

科学的知見の蓄積の活動として、エネルギーリカバリーの有効性について科学的に検証するため、容器包装プラスチックのリサイクル手法(マテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル)とエネルギーリカバリー手法について、環境負荷(エネルギー資源消費、CO2排出量)の削減効果をライフサイクルアセスメント(LCA)手法で評価。

社会的な個別課題への対応(RC推進部主管)

- レスポンシブル・ケア活動の推進 -

化学品を扱うそれぞれの企業が取り組む**自主活動**・化学品の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ての過程において、「環境·安全·健康」を確保し、その成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う





人材育成

持続的に発展し続けるためには、人材を育成することが大変重要

- 次世代を担う子どもたちへの「化学」に対する啓蒙活動、大学での化学産業論 講座の開講、大学院専攻への支援活動を通じた化学産業への社会からの理解促 進を図ると同時に、化学の道へ進む人材を確保する活動
- 会員企業に対してセミナーや 研修会を通じて工場や研究所の 保安防災や労働安全衛生、化学 物質の管理をはじめとする化学 産業を支える人材を育成する場 を提供することで持続可能な社 会の実現に貢献

■ 日化協の人材育成各種講座・セミナー一覧

関座・セミナー	目的	開催頻度	
安全保障貿易管理説明会	外為法に基づく製品及び製造技術の輸出に関する導入教育	2回/年(東京·大阪)	
化学工場の生産現場リーダー ステップアップ研修	生産現場の第一線監督者の育成と技能強化、保安妨災、労働安全衛生、リスクアセスメントを考える。	4四/年	
ガイドライン、 ベストプラクティス集の発行	保安計災、労働安全衛生に保わる日化協の取組み事項の共有による安全活動の向上	不定期	
危険物施送における 安全管理 第音会	危険物輸送に舞わる部門への教育と最新情報の普及	2回/年(東京大阪)	
QSA Rセミナー	化学構造からの化学物質の有害性差異法の動向	2回/年	
ケミカルリス クフォーラム (※ライブ 受窮あり)	リスクに基づく化学物質管理の実務者を養成(年間10回シリーズの教育セミナー)	5月~翌年2月 (全10回/年)	
ケミカルリスクフォーラム等入価 (※ライブ受職あり)	新任の化学品管理担当者を対象として化学品管理に関する必要な知識について 半日で概能する無料セミナー	圓/年	
国際港湾課題 セミナー	アンチ・ダンビング制度、原産地域別、不公正貿易報告額、EPA/FTAなどの解説	I~2回/年	
産業安全書	石油・化学産業における将来の安全を理解できる経営圏、 管理者の育成及び福広い視野をもった安全の専門家の育成 (全16回シリーズの精育会です。)	10月~翌年2月 (全16回/年)	
情報セキュリティセミナー	ITセキュリティ関連情報の紹介を目的としたセミナー	I~2回/年	
人事・労務スタッフ育成セミナー	次世代を担う人事・労務部門のリーダー育成 (全8回シリーズのセミナーで、隔年開催)	5月~翌年2月 (全8回/隔年)	
標準化の重要性に関する 普及義満会	毎年造ったテーマを取り上げた襲演を通じて標準化の重要性について 理解と普及促進を図ることを目的としています。	圓/年	
リスクアセスメントセミナー (BIGDr.Worker活用)	BIGDr:Workerを活用して、理合物を含めたリスク 評価の進め方の管符	I~2回/年	
リスクコミュニケーション研修	RC委員会会員向けに、対断集会などにおけるコミュニケーションスキルの向上を目的にしています。	四/年	



化学人材育成プログラム(大学・大学院):技術部主管

- ・大学院専攻を支援。2018年度は20専攻を対象とし、28人の博士課程学生に奨学金を給付。
- ・博士学生の就職支援のため、就職した博士学生の事例紹介(10月)や、学生・企業交流 会(1月、東京・大阪)を開催。
- ・学生の化学産業への関心を高めるため、企業講師による「化学産業論講座」を神戸大学、 大坂市立大学、東北大学で開講。

夢・化学-21事業(小中高生に向けた啓蒙活動):広報部主管

- ・構成団体の一員として「夢・化学-21」委員会が主催するキャンペーン事業に参加
- ・子どもたちに化学のすばらしさ、面白さを伝え、もっと化学に関心をもってもらう活動
- ・小学生向けには実験や工作を行う体験型イベント「子ども化学実験ショー」「なぜなに?かがく実験教室」を開催。
- ・中学生・高校生向けには化学の実力を競い合う全国大会として「化学グランプリ」を開催、 また、「国際化学オリンピック」に生徒を派遣。



ケミカルリスクフォーラム : 化学品管理部主管

- ・2008年から化学物質のリスク評価を行う実務者の養成講座として「ケミカルリスクフォーラム」を運営。
- ・リスク評価の基本を学習する講義、リスク評価に必要なツール教育、国内外の法規制動向等からなる研修。聴講者の利便性向上のため、2018年度は従来の会場聴講に加え、Web聴講枠での募集を行い、全10回をWeb配信。

産業安全塾 :環境安全部主管

- ・石油・化学産業の各社において安全を推進するリーダー育成を目的に石油連盟、石油化学工業協会と連携で開講。東京産業安全塾は、2018年度に5回目を開講し、29名の修了生を送り出す。
- ・大学教授(塾長)、行政の担当課長、企業からは現役の部長やOBの方を講師として、安全を討論し、実践につなげる講座として取組む。
- ・四日市安全塾、岡山安全塾の支援も継続







国際社会の一員としての活動(国際業務部/化学品管理部/RC推進部/技術部)

化学工業発展のために様々な活動を実施している中で、その活動は国内だけでなく、ICCAに日本の化学産業を代表して加盟し、主に東アジアや東南アジア地域の化学産業の発展のための人材育成や国際的な化学品管理のノウハウを伝えるプログラムに参画するほか、APECのChemical Dialogue(化学対話)やAMEICCの化学産業専門家会合にも参画するなど、国際社会の一員として持続可能な社会に向けた活動に積極的に貢献。

ICCA(国際化学工業協会協議会)の活動

- Energy and Climate Change LG(E&CC LG)*日本企業が議長(三井化学)
- Chemical Policy and Health LG (CP&H LG)
- ・Responsible Care LG(RCLG) *日本企業が副議長(三井化学)
- ・LRI国際ワークショップ

APRO会議

ASEAN規制協力プロジェクト

国連環境総会(UNEA)活動

日化協APEC活動

日化協AMEICC活動

OECD会議への参加





日化協の公式HP内に、SDGs専用ページを開設(英語版も準備中)











「日化協アニュアルレポート2019」に掲載(広報部主管)

- 『持続可能な社会に向けて』として特集-



- ・化学産業としてのあるべき姿
- ・海洋プラスチック問題対応協議会の発足
- ・日化協の人材育成
- ・国際社会の一員としての活動

化学産業は、あらゆる産業に様々な機能を持つ素材を提供することで産業全体のイノベーションを支え、生み出された製品は、私たちの暮らしのあらゆる分野で生活の向上に貢献してきました。

一方、過去に引き起こした製造に伴う公害や環境汚染の問題への反省から環境と安全の問題へ真摯に取組み、1995年から日本では、化学製品が生まれてから消費・廃棄される全ての段階で環境・健康・安全を確保し、その内容を近隣地域や消費者を含む全てのステークホルダーへ開示し、コミュニケーションを図るレスポンシブル・ケア活動を企業の社会的責任(CSR)を果たす中核的な活動として実践しています。

さらに、地球環境への負荷を抑制するために、再生可能エネルギーの利用、省エネ・省資源、炭素循環確立を進めるなど、新たな世界を創造するソリューションプロバイダーとして持続可能な社会の実現に向けて重要な役割を担っています。

ご清聴ありがとうございました!

